



田楽（ディンガク）



ターナム（田いも）

【地いきに目を向ける】

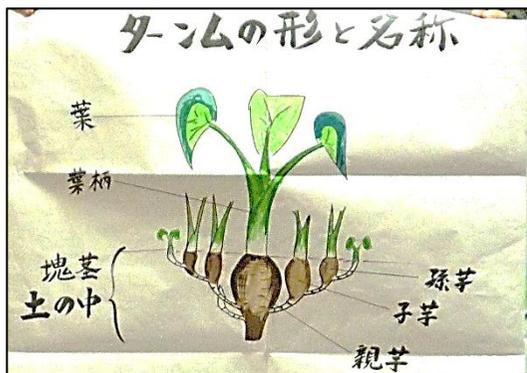
伊佐さんの思い —ターナム農家・伊佐實雄

い
さ
さ
ね
お

みなさんは、「ターナム」を知っていますか？宜野湾市のはごろも小学校がある大山地区は、昔から「ターナム」作りで有名です。

「ターナム」とは田いものことです。給食のジュシーに入ってるのを食べたり、お正月の田楽（ディンガク）として食べたりしたことがありますか。

きれいなわき水がほうふな大山地区は、沖縄県でも有数のターナムの産地です。ここでターナムを育てている農家の一人、伊佐實雄さんは、自分の田んぼのすぐそばにある、はごろも小学校に時々

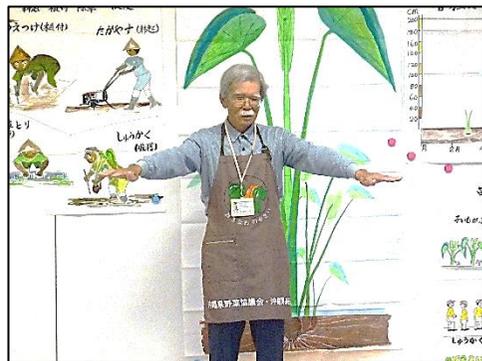


足を運んでいます。この日は、3年生にターナムについてお話をしていました。

「ターナムはすごい作物です。台風や冬の寒さにも負けません。また、一つの親いもから子いも、孫いもがたくさんできます。子孫はんえいのえんぎのいい食べ物として、お祝いの食事に出されます。」

「親いもは子いもに水やえいようを送って育てます。そうして大きくなった子いもや孫いもは、年をとった親いもに逆に水やえいようを送って命を支えようとしています。」

ターナムも、人間の家族と同じように命を支え合っているのです。



実は、伊佐さんのように大山地区でターナムを育てている農家は、年々減っています。平成十二年に百六十名以上いた農家は、今では四十名ほどになっているそうです。

台風が来たり害虫が発生したりして、いもの成長が悪くなる時があっても、伊佐さんは、およそ三十年間ターナムを育て続けています。

「父から受けついだ土地。食べ物を育てるということは、命にかかわる場所です。この土地があるから、つながった命もある。だから、ターナム作りを続けています。」

この日、伊佐さんは子どもたちにターナムのことを伝えるために、イラストをかいたり



写真を使ったり、たくさんのくふうを
していました。そのくふうは毎年新し
くなっています。

「自分がターナム作りをしながら感
じていることをどうしたら子どもたち
に伝えられるか。いつも考えています。」
子どもたちの話をする時の伊佐さん
は、いつも笑顔です。



伊佐さんはどのような思いで、子どもたちに
ターナムのことを伝えているのでしょうか